

Outline

女性研究者支援モデル育成

平成19年度活動概要

「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」は文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として平成18年に採択され、同年7月に開始し、本年平成19年度は第2年度です。初年度開始しました育児・介護支援、環境整備、次世代支援の3プログラムを中心に事業を展開し、自然科学系女性科学者がキャリアパスの障害(ハードル)を乗り越えるための支援活動を通じ、学内の男女共同参画の推進に努めています。

I. 育児・介護支援プログラム:女性研究者が育児を理由に研究を中断することがないよう、(1)女性教員・技術職員の元へ技術補佐員ないし博士研究員を派遣し、研究をサポートしました。(2)女性研究者がベビーシッターを利用する際の経費の一部を補助しました。(3)育児のための柔軟な勤務制度として短時間勤務制度が、本年度4月より全学の教員を対象に試行されました。

II. 環境整備プログラム:女性研究者の職場環境の改善を目指し、(1)大学病院内の病後児保育室「星の子ルーム」は推進室の支援による看護師と保育士各一名の追加配置により、昨年度全学職員と学生が利用可能となりましたが、さらに本年度4月より夕方6時まで保育時間を延長しました。(2)女性用休憩室の整備として、推進室の備品等の支援により、加齢医学研究所に新規に女性用休憩室が設置され、自然科学系部局の全てで女性用休憩室の整備が完了しました。

III. 次世代支援プログラム:次世代の女性研究者の育成を目的とし、(1)自然科学系部局に所属する女子大学院生52名をサイエンス・エンジェルとして採用し、宮城県立第一女子高等学校、沖縄県立八重山高等学校など、16校での母校出張セミナーに派遣しました。また、仙台市博物館における体験科学ひろばなどの科学イベント活動やオープンキャンパスなどで、女子中高生の理系進路選択啓発などに従事しました。学内における研究者交流の中核として、部局交流会の開催、女性研究者等交流ネットワークメーリングリスト[MORIHIME.NET]運営に携わりました。(2) 東北大学女性研究者交流フォーラムを6月仙台国際センターにおいて開催し、約150名の参加により「女性がもっと輝くには？」と題して熱心な討論が行われました。

その他、推進室は本事業の紹介等の広報を進めると共に、男女共同参画委員会や女性研究者支援モデル育成事業実施機関等と連携をとりながら、我が国における女性研究者の支援活動に努めました。

本事業は来年度が最終年度となりますが、他大学に先駆けて試行した短時間勤務制度やサイエンス・エンジェル制度などその特徴は広く認識され、成果が期待されています。実際、今年度の教員の新規採用者に占める女性比率は17.51%になるなど多大な成果が得られつつあります。目標の達成に向かって一層努力していきたいと考えています。

特定領域研究推進支援センター 女性研究者育成支援推進室

平成20年3月1日現在

女性研究者育成支援推進室構成員

室長	野家 啓一	副学長(男女共同参画・学術情報担当)
副室長	大隅 典子	総長特別補佐(男女共同参画担当) / 医学系研究科 教授
副室長	小谷 元子	理学研究科 教授

育児・介護支援班

室員	松居 靖久	加齢医学研究所 教授(班長)
室員	嵩 さやか	法学研究科 准教授
室員	山谷 知行	農学研究科 教授
室員	栗原 和枝	多元物質科学研究所 教授
室員	佐上 博	多元物質科学研究所 准教授

環境整備班

室員	田中 真美	工学研究科 准教授(班長)
室員	石井 恵子	医学保健学科 准教授

次世代支援班

室員	倉田 祥一郎	薬学研究科 教授(班長)
室員	玉江 京子	理学研究科 助教
室員	田村 宏治	生命科学研究科 教授
室員	布柴 達男	生命科学研究科 准教授

予算管理・積算班

室員	米永 一郎	金属材料研究所 教授(班長)
室員	松島 紀佐	工学研究科 准教授

女性研究者育成支援推進室スタッフ

岩淵 美歩	小飯塚 さやか	佐藤 彩子
-------	---------	-------

Tohoku Women's

Hurdling

Project 2007

平成19年度 杜の都女性科学者 ハードリング支援事業 活動報告書



〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
東北大学 特定領域研究推進支援センター 女性研究者育成支援推進室

URL: <http://www.morihime.tohoku.ac.jp>

E-mail: mh_office@morihime.tohoku.ac.jp

Tohoku Women's Hurdling Project

東北大学 特定領域研究推進支援センター 女性研究者育成支援推進室



TOHOKU
UNIVERSITY

Support for Child / Family Care

1 育児・介護支援プログラム【女性研究者の育児と研究の両立を支援】

◎支援要員制度

女性研究者が出産、育児等を理由に研究を断念することがないよう、研究をサポートする支援要員を配置。

平成19年度支援実績 ●理学研究科・・・1名 ●工学研究科・・・3名 ●金属材料研究所・・・2名 ●流体科学研究所・・・1名

◎ベビーシッター利用料補助制度

女性研究者が育児を理由に研究を断念することがないよう、ベビーシッター利用料を補助。

平成19年度支援実績 ●工学研究科・・・3名 ●流体科学研究所・・・1名

◎育児のための短時間勤務制度の試行

全学の教員について、部分育児休業の拡大による柔軟な勤務制度として平成19年4月1日より試行。(2名の利用)

Voice

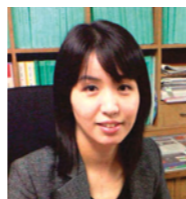


工学研究科
大路 真美 准教授

2006年7月末に出産して、2007年7月1日から、支援要員制度で技術補佐員さんを配置していただきました。私の今の研究の一つに触感測定装置の開発があり、その装置で様々なものの触感を計測する実験が重要です。実験を行う際には温度や湿度の環境の影響のため、一定の環境で一度に計測する必要があります。技術補佐員さんには、最初この研究に関する研究室の論文や参考文献などを読んで勉強を、現在は新たな対象物の触感を測定する実験をしてもらっています。実験準備としての対象物の最適な土台作成、測定条件の検討、さらに検出される信号の解析方法の検討など多岐にわたる内容に取り組んでもらっています。この支援要員制度のおかげで子育てをしながらでも、研究が着実に進んでいると感じています。

支援要員制度を利用して

2007年5月から技術補佐員さんに来て頂いて大変助かっています。出産後、2006年8月に職場復帰しましたが、保育園のお迎えのために毎日夕方に帰宅する生活ではじっくり研究し、その成果を論文にまとめる暇など全く無く、最低限の仕事は処理するだけで精一杯でした。それが、技術補佐員さんに来てもらってからはデータ処理もどんどん進み、国内会議、国際会議各1件発表、邦文誌、欧文誌各1本投稿と、急激に研究が進展しました。また、技術補佐員さんは私と同じ分野の修士の学位があり、データ処理だけではなく研究テーマの一つを分担してもらっています。よく「体が2つ欲しい」と言いますが、まさに分身ができて研究を手伝ってくれているようです。子育てが大変でも、研究者として生き残っていくためには目に見える業績を出し続けなければなりません。その意味で、研究支援員派遣制度は我々女性科学者にとってとてもありがたい制度であると実感しています。



流体科学研究所
伊賀 由佳 助教



工学研究科
佐多 教子 准教授

出産・子育ては女性研究者にとってはハードルになることは事実で、私のように夫や親類が近くに住んでいない場合は、子供が病気をした時や出張の時、そのハードルはより高くなります。以前は他の教員の方と同じように仕事をすることができない状況にもどかしさもあり、金銭的な負担が足枷になることもありました。この制度のおかげで、金銭面ではもちろんのこと、大学からの心強いサポートのおかげで気持ちの上でもゆとりをもって仕事を進めることができるようになりました。夫や祖父母に頼ることが難しい状況にある女性研究者には、いざという時にサポートを求められることができるという安心感が得られる非常にいい制度だと思います。出産・子育てがハードルになることは確かですが、越えるに値する価値がありますし、大学による支援は何よりもありがたいと感じています。

ベビーシッター利用料補助制度を利用して

私は小学生と保育園二人の子供を育てながら学位を取り、研究を続けてきました。通勤途中にある保育園は普段私が送迎しますが、父親の職場とは方向が全く違い、私ができない日は父親が往復3時間以上かけて送り迎えしていました。経済的な面と心理的抵抗感から「ベビーシッターに子供を預ける」ということに二の足を踏んでいましたが、この制度をきっかけにシッターさんに保育園の送迎をお願いしてからは、私の都合がつかないときのサポートとして非常に有り難く感じています。病児対応の可否や対象年齢、料金などは、シッター会社によってまちまちですが、本制度ではシッター会社を自由に選べるため、私は小学校高学年まで、病児対応も可能なお子様をお願いしています。我が家のように共働きで、さらにパートナーが同じ地域で職を得ることが難しく離れて暮らさざるを得ない女性研究者も少なくないのが実情ですが、子育てと研究に孤軍奮闘している女性にとっては、救世主とも言える心強い支援制度ではないでしょうか。



工学研究科
沼山 恵子 助教

Improvement of Facilities

2 環境整備プログラム【女性研究者の職場環境の改善】

◎大学病院 病後児保育室 「星の子ルーム」の拡充

全学職員と学生が夕方6時まで利用可能

◎女性用休憩室の整備

女性研究者の職場環境整備の一環として実施。



平成19年度実績

加齢医学研究所に新規に女性用休憩室を設置(備品等を本事業で負担)自然科学系の全ての研究科と研究所に女性用休憩室の整備が完了。

Voice

病後児保育室を利用して

我が家をはじめ病後児保育室を利用してから既に6年が経過しました。最初は保育園に行き始めたばかりの娘がほとんど毎月のように高熱を出し、その度に1週間ほど通いました。職場内に保育室があるため仕事の合間に様子を見たり、状況を伺うことができるという点が一番強く、とても安心して預けることができました。看護師、保育士の方々も常に笑顔で接してくださり、子供はもちろん私たちの不安な気持ちも度々救われました。おかげでお世話になった2人の子供は病後児保育が不要な日でも「病後児保育に行きたい」、どちらか1人が実際に病後児保育室を利用する日には片方が「いいなあ、ずるーい。」と焼きもちを焼く始末です。利用者他皆様のご厚意で集まったおもちゃのおかげで昔の○○○レンジャー、仮面ライダー、ウルトラマンシリーズにも詳しくなり、どうやら病後児保育室を第2の保育園と勘違いしている節がありますが、そこまで馴染ませてくれた皆様の心遣いに感謝しています。



大学病院
唐橋 晶子 医員

「ハードリング支援事業」は、女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、様々な支援策を実施しています。

Support for Next Generation

3 次世代支援プログラム【次世代の女性研究者の育成】

◎サイエンス・エンジェル(SA)の活動

自然科学系部局に所属する女子大学院生52名がサイエンス・エンジェルとして本事業に参画し、女子中高生の理系進路選択啓発などの次世代の女性研究者育成活動を実施。

平成19年度採用実績 ●理学研究科・・・8名 ●医学系研究科・・・5名 ●歯学研究科・・・2名 ●薬学研究科・・・7名 ●工学研究科・・・8名 ●農学研究科・・・6名 ●情報科学研究科・・・1名 ●生命科学研究所・・・11名 ●環境科学研究科・・・4名

主な活動内容

- 母校出張セミナー(宮城県立第一女子高等学校、沖縄県立八重山高等学校など、16校で実施)
- 見て、さわって、感じる科学@Go・Go悠里館まつり(5月)、サイエンス・エンジェルの体験科学ひろば@仙台市博物館(11月)、子ども広場-チャレンジ!サイエンス・マジック07(12月)
- オープンキャンパスfor女子高校生byサイエンス・エンジェル(7月)、部局交流会(北青葉山キャンパス(4月)、生命科学研究所(12月)、雨宮キャンパス(1月))

◎女性研究者等交流ネットワークメーリングリスト【MORIHIME.NET】

本学の女性研究者・学生のための学内情報ネットワークとして利用

サイエンス・エンジェル(SA)として

◇今井由佳(農学研究科)

母校出張セミナー等で講演したとき、女子高校生の皆さんがとても熱心に話を聞いてくださる姿が印象的でした。また自分たちで様々な企画を行うことは私自身の成長にも繋がりました。さらに自分の将来の方向性を見出すことができ、とても有意義な1年間となりました。

◇柿崎真沙子(医学系研究科)

最初は「昨年からの先輩SAとうまくやれるだろうか」と不安でしたが、博物館でのイベントや交流会を通じ、色々な分野の院生と知り合うことができました。他分野のSAと交流することで自分の研究室の長所・短所も改めて知ることができたり、何より自分自身が研究生活を送る上で「みんな頑張っている」と励みになっています。

◇倉澤香澄(生命科学研究所)

私にとってのSA活動は、「新しい自分」が引き出される貴重な場です。今年度は特に、「伝える力」や企画の立案・実行を通して「周囲を巻き込み、挑戦し、やり遂げる力」が鍛えられたと思います。また研究室の中だけでは得がたい人間関係や、自分の研究が異分野と繋がる楽しさを実感しています。

◇事崎由佳(情報科学研究科)

この1年、企画WGとして発案段階から携り、ネットワークWGとしてもSA内のネットワーク作りに関わるなど、本当に様々な経験をし、自分に足りなかったスキル(交渉力、企画力、実行力等)を養うことができました。また、普段はなかなかできない地域の方々との交流を通して、改めて人と人の繋がりが相手に「科学を伝える」ということの大切さを感じ、非常に貴重な機会を得たと思います。

◇佐藤由佳(理学研究科)

今年からSAとなり、様々な活動に携わる機会を与えて頂きました。多くの新たな出会いを通じて、これまで考えなかった価値観や多様な生き方を知りえたことが一番の収穫でした。キャリアパスに悩む自分にとって非常に刺激的な一年だったと感じています。

Voice



DNA?

ここにも磁石が!



化石見つかるかな?

東北大学女性研究者交流フォーラム

日時:平成19年6月9日(土)13:00-17:00
場所:仙台国際センター
後援:内閣府男女共同参画局、宮城県、仙台市

基調講演: 郷 通子氏(お茶の水女子大学 学長)
今井 通子氏(株式会社 ル・ベルソー 代表取締役社長)

パネルディスカッション:「女性がもっと輝くには?」
<パネリスト>

- 東北大学大学院教育学研究科 教授…………… 生田 久美子
 - 東北大学産学官連携推進本部 副本部長…………… 高橋 富男
 - 東北大学国際高等融合領域研究所 助教…………… 矢野 恵美
 - 21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」フェロー…………… 星野 由美
 - 東北大学 サイエンス・エンジェル…………… 原 梓
 - <コーディネーター>
 - 東北大学総長特別補佐、男女共同参画担当…………… 大隅 典子
- フォーラムに先立ち、平成19年度サイエンス・エンジェル任命式を挙

